

知事との県民対話集会（生坂村）概要

- ・開催日時 令和4年12月15日（木） 午前10時から午前11時30分まで
- ・会場 生坂村営やまなみ荘 大ホール
- ・参加者 県民33名、藤澤生坂村長、阿部知事、草間松本地域振興局長
- ・テーマ 農業振興・第6次産業の振興と移住定住による村の活性化

・主な発言（要旨）

【参加者】

・ぶどうは品種によって作りづらいものがある。ナガノパープルの栽培時に裂果が発生し、売れるものが極端に少ない年があった。品種改良や新品種の開発をお願いしたい。

【知事】

・品種改良は果樹試験場などで常に取り組んでいる。農家の皆さんの所得が上がるように、ブランドカの向上や品種改良、海外へのアピールなどしていきたい。

【参加者】

・県内の特定地域づくり事業協同組合の組合間で、閑散期、繁忙期等の状況に応じ、職員を派遣し合える仕組みづくりができないかと考えている。

【知事】

・農山村地域で生活する上で生業は重要。制度を確認し改善できるよう考えたい。

【参加者】

・村内の保育園には保育士が少ない。未満児保育では待機児童も発生している。子育て世代はほとんどが共働きをしないと生活できない。

【知事】

・市長会、町村会と、地域に必要な人材を共同で確保するような仕組みづくりの検討を始めている。
・保育士の確保は市町村と一緒に考えていきたい。処遇や配置基準の改善など、どこから解決するかが悩ましいが、もう少し手厚い配置にできないか、市町村に投げかけたい。
・子どもを預ける場所がない、子育てにお金がかかりすぎるということは、若い子育て世代のコンセンサスだと思う。県としても子育て支援は充実させていきたい。

【参加者】

・私の職場でも、保育園に子どもを預けられなくて、働きたいが働けないと断られたことがある。保育士・保育園のあり方を何とかできないものかと思う。

【知事】

・保育士は資格が必要で、子育て経験のあるお母さん達が手伝っても、保育士としてはカウントされない。人口減少下において、狭い地域で人間関係が分かっていながらもこのルールが本当に地域に適したものか、問い直していかなければいけないと考えている。

【参加者】

・不登校の子どもに対し、家庭、学校、保育園以外の居場所や助けてくれる方、サービスが充実すればいいと思う。小さい村なので、松本広域圏など広い範囲で利用ができれば嬉しい。

【知事】

・フリースクールの充実や不登校特例校、夜間中学の設置など、県全体の学校のあり方を考えていきたい。市町村とも一緒に考えたい。

【参加者】

・食堂兼農産品加工販売施設では、地元の農産物を使い、足りないときは県内産にこだわっているが、最近の農産物の価格高騰や品不足が大きな不安になっている。農産物の安定した確保ができるよう、働きかけをお願いしたい。

【知事】

・県も3次にわたる価格高騰対策を行ってきたが、ものの価格はどうか、よく考えないといけない。事業者の皆さんには価格転嫁をお願いしている。単に安ければいいということではなく、適正な価格で取引しないと持続可能性がない。

【参加者】

・生坂村ではハチクが取れ、道の駅等での売れ行きがいい。畑作に切り替えて増産し、造花、灰焼きに次ぐ第3の名物にしたい。
・竹林や作業道の整備をして竹林から畑への転化を図り、遊休農地の活用につなげたい。指導を。
・タケノコは漢方での効能として、嘔吐、吐き気、精神呼吸疾患などへの効能があると聞いた。自分達で調べてもよくわからないので、研究機関等で調べていただきたい。

【知事】

・地域の特産品を活かしていくことは重要。業として成り立たせるためには、いかに持続可能性を高められるかだと思う。応援していきたい。
・タケノコの効果については、県内で同様の活動をしている方達と連携していただき、複数の産地で同様の取組が起これば、試験場でもきちんとした効能の評価等をしていくことを考えたい。

【参加者】

・春先の雹でぶどうが全滅してしまった。対策としては雨よげが必要だが、資材費の高騰で自費では難しい。できるだけ補助事業が採択されるよう配慮してほしい。

【草間松本地域振興局長】

・農林水産省や県の補助事業があるので、松本農業農村支援センターへご相談いただきたい。

【参加者】

・脱炭素について、県が進めているプラットフォーム化を早く実現し、県民に寄り添った（わかりやすい）内容で、どういった生活態度が気候変動によいのかを発信してほしい。
・古き良き伝統や歴史、便利さを求めすぎて消えてしまったものの復活など、長野らしいことが発信できたらいいと思う。

【知事】

・ゼロカーボン社会に向けたプラットフォームは準備を進めており、世界に訴えられるものになるよう指示している。一方で、地に足がついた取組も必要であり、ローカルとグローバルを意識しながら取り組んでいきたい。
・生活コストを下げる意味でも、脱炭素は重要ということを発信していきたい。一緒に考えてほしい。

【参加者】

・食料とエネルギーにおいて長野県は自立できないか。小水力発電などポテンシャルはあると思う。

【知事】

・食料自給率は、価格ベースでは100%を超えているが、長野県は果樹や野菜の生産が多いのでカロリーベースでは50%くらい。農業のあり方は、食料安全保障の観点を持って考えていきたい。
・エネルギーは、小水力、太陽光、バイオマスなど、再生可能エネルギーの比率を高めて、2030年までに温室効果ガスを実質2010年比で6割削減を目指して取り組んでいきたい。

【参加者】

・長野県庁で働いている女性の役職員の割合はどのくらいか。それを増やすために知事がどう努力されているか。

【知事】

・県職員の女性の係長級以上は令和3年4月時点で2割未満。審議会の女性委員は4割程度。
・女性の活躍をもっと目に見える形で応援していきたい。県職員の女性幹部の割合も増やしていきたい。